

## 西都保健生協『被災者支援春のふれあいバザー』開催

西東京支部は3月27日(日)支部事務所を会場にスタッフ26人(運営委員11人、組合員15人、ボランティアも含む)で「被災者支援春のふれあいバザー」を行いました。来場者50～60人。売り上げは8万円以上、材料費を引いた利益6万1,221円を救援募金として寄付します。

前日までにバザーのチラシ1,800枚を手配り。非組合員の方も品物の提供で来てくれたり、お針箱班が作品の販売のために出店してくれたり、大勢のスタッフで大賑わいでした。



## これからの地域支援活動は

### 医療支援＋生活支援の観点で

災害から2週間が経過して医療のニーズも変化しています。被災後ずっと自宅の2階で暮らしている人、避難所から徐々に自宅に戻る人も増えており、避難所だけでなく在宅に埋もれている医療難民を見つけ医療機関へ繋げるといった活動が重要になってきます。

これからは医療支援＋生活支援という観点で地域支援活動のニーズは増えてくるでしょう。

(西都保健生協『あかるいまちづくりニュースNo.43』より)

## 八王子共立診療所、

### ランドセルを被災地へ

小さなことでも出来ることから支援していきたいと、柴田看護師の呼びかけに、ひと晩で30個のランドセルが集まり驚きました。

斉藤看護師は娘さんのランドセル2個、小河原看護師は息子さんのランドセル1個を託しました。(『民医連南多摩連絡会ニュースNo.7』より)



## 『東日本大震災義援金の税法上の取り扱い』について

ニュース No.37 に上記、取り扱いについての添付資料をお送りしましたが、別途、専務宛にお送りした全日本民医連厚生事業協同組合第75号(2011年3月30日付)『東北関東大震災に係わる「分担金」などの取り扱いについて』と差し替えをお願いいたします。